

教授・学習 11 (693~702)

- 座長 光田基郎・内田伸子
- 693 幼児における口頭作文の研究Ⅱ
北海道教育大学 藤 友 雄 暉
- 694 幼児の作話内容に及ぼす先行情報の効果
——文字のない絵本を用いて——
愛媛大学 前 田 健 一
- 695 絵画を材料とした説明作文についての叙述様式の
発達 お茶の水女子大学 加 藤 佳 子
- 696 物語産出過程の制御
お茶の水女子大学 内 田 伸 子
- 697 視点の言語心理学的研究 ——共感度の操作(2)——
上越教育大学 鈴 木 情 一
- 698 認知的視点取りの異なる発達水準——幼児期の、
物語と類の有利情報課題において——
関西大学 松 村 暢 隆
- 699 他者感情の推論における対人状況理解の発達的研究
——物語理解を通して——
九州大学 橋 本 巖
- 700 物語の登場人物と読み手との関わり(2)
——発達の検討—— 法政大学 田 代 康 子
- 701 文のマクロ構造理解における挿入質問と継時的処
理能力の効果——精神遅滞児と健常児の比較——
徳島大学 光 田 基 郎
- 702 思考の発達に関する研究——大学生の随筆読解と
構えとの関係について——
愛媛大学 佐 藤 公 代
- 693 (藤友)では佐藤(愛媛大)より、(1)子供の立場
にたつた問題意識の研究であれば、子供がどんなイメージ
で物語を作ってもよい。たとえ実験者の意図にそわなく
ても子供のイメージが豊かなら良いと思う。(2)有意差
の意味付けの2点が問われ、(1)子供の発想や読み取りは
自由でよいが、絵本の作者は、絵を用いてストーリを
伝える意図をもつべき事、(2)絵本を製作する側から挿絵
の評価をする事を研究の目的とする旨の解答があった。
加藤(愛知県立高)より表2の補足が求められたが、4
歳児と5歳児では絵本の読みに差があるとの答えがあっ
た。野島(武蔵野通研)より4歳児が物語内容を理解し
ていないのなら本を読まないのではないか。4歳児が自
分なりの理解をしている可能性は考えないのかとの質問
に対し、子供の読み取り方は一人一人自由で、違ったも
のであってよいと考える旨の解答がなされた。
- 694 (前田)に対し田代(法政大)より、適切情報群
の子供は、先行情報と第11場面など自分の読み取った内
容とが矛盾する場合、実験者に「前と違う話でもよい
か」等の問いかけ、あるいはためらう反応が生じたの

ではないかとの質問があり、これに対して殆どの被験者
は黙っていたが若干の者が発言した他、発言までの時間
が長くなった事からやや葛藤している様に見られる被験
者もあつたとの解答がなされた。鈴木(東大)からの先
行情報として与えられた点のみを規準として比較するの
はどうか、与えられた情報をよく発話したということでは
作話の問題とはいえないのではとの質問に対し、確かに
適切情報I群の第1場面では、与えられた先行情報内容
を単純に記憶し、それを再生しただけの可能性は強い。
しかし、第1場面でのみ情報が与えられたにも関わらず、
第11場面ほか一連の場面で先行情報内容に合致した
作話が行われた点に注目してほしい旨の解答があつた。

695 (加藤)に対し宮崎(大妻女大)より刺激の扱い
方、特に絵の中のパースペクティブ及びその中での視点
の動きの可能性を考えるべきとの提言の他、内田(お茶
の水女大)より、内容の統合の前に1つずつの対象を細
かく捉える過程の重要性が指摘された。高木(山形大)
からも、絵に描かれた全事象についての網羅的言及が
出来る事が説明文の叙述様式の発達と巧緻化を示すとは
考え難いとの意見が出され、これに対して作文の教科書
で絵の内容を文に置き換える過程や叙述順序が重視され
ている例から、「絵を理解する」条件の分析を試みたとの
解答が、発表者よりなされた。この他、高木により、
説明文を扱った際にも世界を構成するための中心的構造
が考えられるべきであるとの提言がなされた。

696 (内田)に対し野島(武蔵野通研)より相互作用
の中で物語を作る際のプランニングの短期化の可能性が
指摘されたが、5歳児後半に物語の筋の展開の構想が可能
になるまではプランニングの短かさと、会話状況に似た状
況依存的なプランによる産出の事態が一般的と考える故
に作話過程の意識化をこの実験で扱おう旨の解答があ
つた。鈴木(東大)よりメタコメントの内容と数的処理
に関する質問があり、物語文の全体量の多少に関らずメ
タコメントが出たか否かを扱うとの答があつた。丸野
(九大)の理解過程における意味生成方略と物語産出方
略の関係ならびに物語産出過程の研究の位置付けについ
ての質問に対して、生成の過程と理解過程で扱われる表
象の近似ならびに生成の研究は、理解に際して聞き手や
読み手の内部でどの様な表象が作られるかの内的操作や
表象の生成方略を外からとらえるために研究している旨
の答がなされた。

697 (鈴木)に加藤(愛知県立高)と前田より選択肢
の構成について、698 (松村)に前田より段階Iの内容
の説明を求める質問が行われ、説明がなされた。

(光田基郎・内田伸子)